

様式（細則6－2）

令和6年6月14日

浜田市議会議員 笹田 卓様

議員名 西田 清久

研 修 受 講 報 告 書

下記の通り研修を受講したので報告します。

記

1. 研修名

第16回2024年度 日本自治創造学会 研究大会

「個性と魅力ある自治体づくりに挑戦する」

明治大学アカデミーコモン棟 3F （東京：お茶の水）

2. 受講の目的

地方自治体の持つ様々な課題の対処法や二元代表制の一翼を担う議会人としての考え方の追求

3. 期間

令和6年5月30日（木）～令和6年5月31日（金）

4. 経費

94,680円

（経費内訳 受講料15,000円、旅費（萩・石見空港～羽田空港）79,680円）

5. 研修のポイント・議員活動や市政への反映など

大学教授や政治、地方自治体の首長など多才な講師による研究発表の受講は、浜田市政のあらゆる場面に大いに参考になる。

6. 研修内容

（詳細は別紙のとおり）



研修内容の概要

講演 1. 個性ある自治体づくり 牛山久仁彦（明治大学政治経済学部）

～人口減少・少子高齢化と激甚災害の時代の地域社会を考える～

- 自治体の消滅が再びやってくる。
- 人口減少・少子高齢化の「衝撃」と激甚災害の「追い打ち」の対策
- 「個性ある自治体」をつくるということ
東京都大田区の基本構想や茨城県境町の例を挙げて、地方分権と自治体の個性や個性ある政策の創造について講演。

所感：激甚災害への対応には人口の多少によって投資の考え方が変わる。

自治体の個性は、首長の強いリーダーシップによるが、地域力を高め、多様な個性が輝くような豊かな町を創造していけば、未来につながる。

講演 2. 「政策議会」の理論と実践 土山希美枝（法政大学法学部教授）

- 議会改革も制度的には進んだが、議員/議会という存在に対する市民の理解と評価は大きな課題がある
- 一般質問を議会の政策資源とする取り組み。全議員で「一般質問検討会議」
一般質問の追跡をやっているか。行政が取り上げたかを広報で取り上げる。
- 政策事務は必要。定数削減は止めてほしい。議員のやることはたくさんある。

所感：政策議会として争点を明確にし、ストレートに結論に結び付けるのではなく、結論を左右する距離感から議論を始める感覚が勉強になった。

講演 3. “新たな地方議会の創造” 議会からの発信” 「住民自治の根幹」としての議会の作動 江藤俊昭（大正大学地域創生学部教授）

- 議会改革の到達点・「住民自治の根幹」としての議会の作動（政策サイクル）
- 追認機関ではなく首長と政策論争する議会であれ。

所感：議会が執行部の追認機関ではない！と口を酸っぱく言われる江藤先生には刺激をいただいた。住民自治の根幹として政策サイクルを意識して活動していきたいと思った。

講演 4. 賢く収縮するまちづくり 青野高陽（岡山県美咲町長）

- 小規模多機能自治の展開
- 中学生以上全員アンケートの結果から地域づくりの設計図「地域みらい計画書」を作成した。自治力、地域力のアップ。

所感：町の将来を見据えた公共施設の有り方、人口減少による人材育成、地域力
まちづくりの考え方に多く共感した。

講演 5. デジタル導入の価値を考える 河野太郎（デジタル大臣・衆議院議員）

- 急激な人口減少と都市部に人が集中することで、本来人間がやらなければならないことをロボットや ICT にやってもらう。
- マイナンバーカードの活用
- 様式を統一し、共通システムを国がある程度つくる。政策は各自治体で。
- デジタルは解るが、IT 人材がないのが課題。

所感：デジタル庁では IT 人材を育成するために地方自治体から職員の受け入れを行っている。浜田市はどうか。検討されたらどうかと思う。

講演 6. 今、求められる子どもの自殺予防

新井肇（関西外国語大学外国語学部教授・文科省いじめ防止対策協議会座長）

- 子供の自殺予防は非常に深刻で、学校だけで担いきれないものが多い。
- 2～3 歳からネットが見られて実体験が不足している。
- 死んでも生まれ変わると思っている子どもが多い。
- 大人全員で子どもを見ることが重要。
- 自殺を防ぐ最大のゲートキーパーは、親（保護者）または先生。

所感：児童生徒の自殺の危険因子は、非常に多くあり、周りの気づきの重要性和対応の仕方、また成長段階での豊かな心、しなやかな心を育む環境を大人が用意しておかなければならないと感じた。

以上